

# 島根 更生保護

NO.183

(平成26年10月1日発行)  
島根県保護司会連合会

(島根更生保護データ)

保護司総数	493人
保護観察事件	152件
生活環境の調整事件	258件
(26.9.1現在)	



隠岐ジオパークのローソク島(隠岐地区道坂博官保護司提供)

## 矯正職員の使命

松江刑務所長  
光岡英司



矯正行政は、被収容者の収容を確保し、その人権を尊重しつつ、それぞれの法的地位に応じた適切な処遇を実現することにより、刑事・少年司法手続の円滑な運営に寄与し、犯罪・非行を犯した者の再犯・再非行を防止し、新たな犯罪被害者を生じさせないという役割を担っている。

矯正職員は、規律と秩序ある矯正施設のあるべき環境を保持しつつ、「一人の人間」としての被収容者に正面から向き合い、更生に導くことで、国民生活の基盤である国の治安を支え、安心・安全な社会を構築するという国家の重要な責務を果たしている。

私たちは、このことを深く自覚し、誇りを持って自らの職務を遂行する。

また、たゆまぬ努力をもって、自らの職務に対する能力を高め、人間としての成長を続け、国民の信頼と期待に誠実に応えていく。

私たちは、以上のことを矯正職員の使命として共有するとともに、次に掲げる事項を常に意識して職務を遂行する。

— 中略 —

### 6 (再犯・再非行の防止)

犯罪被害者及びその家族の苦しみや悲しみに思

いを致し、専門性に裏付けられた見地に基づき、再犯・再非行の防止に資する教育・指導と社会復帰支援を効果的に実施する。

### 7 (関係機関との連携)

矯正の役割を果たすためには、警察、検察、裁判所、更生保護等の司法関係機関はもちろんのこと、民間協力者や医療、福祉、教育、就労を始とする関係機関等との支援や協力を得る必要があることを自覚し、これら機関等との連携・協働に努める。

### 8 (地域社会との共生)

被収容者が真に社会復帰を果たすためには、社会の理解と協力が必要不可欠であることを認識し、矯正施設が地域社会に受け入れられるよう、組織として地域社会の発展に貢献するとともに、職員一人ひとりが社会的な視野を広め、地域社会の一員として信頼を得られる存在となるよう努める。

上記文章は、本年3月、法務省矯正局が我々全矯正職員に「矯正職員の使命」について示したものを抜粋して掲載した。

再犯防止対策が進むためには、社会全体による受入れが進むことが必要である。そのためには、矯正施設の役割や職員の使命とともに施設内処遇の各種取組をより多くの人に知ってもらい、社会全体として、出所者の再出発を支援し、受け入れが促進されるよう、矯正側から積極的に広報していくことが大切であるとの思いから、その抜粋を紹介した。その思いが広がっていくことを期待したい。

# 地域に根ざし、幅広く、いきいきと展開

－第64回社会を明るくする運動実施結果から－

第60回から本運動の趣旨をわかりやすいものにするために「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」という副題が付されています。

そして行動目標としては

- ① 犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支えよう
- ② 犯罪や非行に陥らないように地域で支えよう
- ③ これらの点について、地域社会の理解と協力の輪を広げよう

重点目標としては

「立ち直りを支える取組についての協力の拡大」、「就労・住居等の生活基盤づくりにつながる取組の推進」が定められ、島根県内各地区推進委員会において様々な活動が実施されました。各地区の取り組みについて、一部を写真で紹介します。



松江駅前街頭広報



松江駅前街頭広報



出雲地区（社明七夕笹飾り）



雲南地区（社明自主研修）



隠岐地区（大臣メッセージ伝達）



益田地区（社明ソフトボール大会）

## ラジオ体操と地元の踊り

雲南地区保護司

験馬重弘

視点

焦点

保護司を拝命して22年が経過しましたが、ケースをもった経験から感じることは人格形成には、家庭環境や友人関係が非常に大きなウエイトを占めているということです。

そこで私の地域では8年前から7月と8月の夏休みに2回「ラジオ体操と下熊谷音頭踊りの練習」を行っています。

これは社会を明るくする運動とふるまい向上運動の一環として子ども達と地域の大人が交流を深めるものです。朝の新鮮な空気の中でラジオ体操を行い、そのあと地元で伝わる踊りを保存会の皆さんに教えてもらいながら練習します。

子どもにとって小さいときからなるべく多くの子ども達と触れ合い、大人達と交流をもつことは健全な成長に欠かせない大切なことです。

世の中にはいろいろな考えがあり、さまざまな立場があります。それらを認め合って生きていくことが望まれます。

挨拶をしたり靴をそろえたりすることは、互いに認め合う基本的なふるまいです。

また地元の踊りを覚えておくことは、子ども達が将来どこに行っても古里とのつながりを思い出すよいきっかけになることでしょう。

最近は対人関係がうまくいかないことによる犯罪が増えているように思います。

自分の殻に閉じこもった生活を続けると自分と他人との関係が正しく調整できなくなり、さらに進むと犯罪に至ってしまう場合があるのではないのでしょうか。

こうした人々が出ないように文字通り明るい社会を築き、ふるまいを向上させるために地道ではありますが、この活動を今後も続けていきたいと考えています。



## これまでとこれから

飯石地区更生保護女性会

倉橋裕子

飯石地区更生保護女性会は、昭和34年に43名で発足して半世紀を超え今110名で活動しています。最初から続いている地区内の全小中学校に愛の図書贈呈があります。会員が愛の募金を集めた中から子供たちへの贈りものは大変喜ばれており、学校の図書室に「愛の図書」と書かれたコーナーに本が並んでいます。会員が本の読み聞かせのボランティアに出かけたりして、本を通して私たちの思いが子供たちに伝わっていく事を願っています。

もう一つの事業は2年に1度の矯正施設や更生保護施設の視察研修です。今年は新改築になった松江の更生保護施設へ行きました。刑務所や少年院を出た人が帰住する所がない為に一時的に保護する施設です。設備が整ったきれいな場所で再出発しようと頑張っている人たち。早く仕事が見つかり、再犯しないでしっかり自活出来るようになって欲しいと願うばかりですが、現実

は厳しいもので、仕事に着ていくスーツもなく、また、更生保護施設へ本人を訪ねて来る面会者もなく……。

飯石地区は少子高齢化、過疎地になってきていますが、幸い非行や犯罪の少ない地域です。

いつまでも、何があろうとも“おかえり、ただいま、お元気？”と挨拶が交わせる地域であり続けるようお願い、更女も視野を広げて私たちで出来る活動を地道に続けていきたいと思っています。



～一日保護観察所長行事「難波利三先生による記念講演」開催される～

平成26年7月1日(火)午前10時から松江地方合同庁舎6階：松江保護観察所会議室において、第64回“社会を明るくする運動”の一日保護観察所長行事として、直木賞作家である難波利三先生(大阪府堺市在住、大田市出身)をお迎えし、記念講演が開催されました。演題は『人間ばんざい』とされ、作家としての先生の様々な体験や秘話などをとても分かり易く又ユーモアを交えてお話されました。居住地である大阪や故郷である温泉津を主な舞台に、私たちの日々の暮らしの中での何気ない会話や行動が、時としてとても大きな転機に繋がることがあるという事を拝聴しました。



7/1 社明記念講演会

第23回島根県更生保護大会のご案内

とき 平成26年11月20日(木)

午前10時開会・清興  
10時40分より記念講演  
午後13時より式典

ところ 安来市民会館(安来市安来町878-1)  
TEL(0854)22-3308

「愛の図書贈呈式」のご案内

とき 平成26年12月8日(月)  
10時より

ところ 松江保護観察所会議室

心の通う面接を ～聴き方教室～

松江地区 北原 則夫

毎月第3火曜日の午後1時半から3時まで、松江保護観察所の会議室をお借りして、自主研修会「聴き方教室」が開かれています。

この研修会は平成12年1月、当時のベテラン保護司の皆さんの提案で始まりました。

毎回和やかな雰囲気の中、多くの実績に裏打ちされた先輩保護司の話や、時には職員の皆さんをお迎えして、具体的に心の通う面接の方法などを学んでいます。対象者のケースはそれぞれ異なります。一人ひとりにどう向き合うのがベターか、助言をいただくこともあります。

聴き方教室が始まって15年、この蓄積こそ大きな財産です。良い面接とは対象者の心の叫びを聴くこと……地区や経験にかかわらず、多くの皆さんの参加をお待ちしています。

全保連表彰

島根県保護司会連合会坂本主祥会長には、平成16年から10ヶ年間本県連合会会長として尽力され、このたび全国保護司連盟表彰規程により表彰状と記念品が贈呈されました。おめでとうございます。



遺族追従

故杉本健治保護司(浜田)の妻杉本モモ枝氏に遺族追従として賜杯及び杯記が贈呈されました。(平成26年5月31日)

敬  
弔

下記の方がご逝去されました。ご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。  
保護司 柏崎仁志(松江)  
(平成26年8月12日死亡)

(表紙写真説明)

ローソク島(隠岐ジオパーク)  
高さ約20メートルのローソクのような形をした奇岩で、夕日が先端に重なると、まるで巨大なローソクに火を灯したように見えます。夕日に合わせて出港する遊覧船からは是非ベストショットを狙っててください。

編集後記

今年の夏も連日猛暑が続きましたが、近年、時節を問わずいわゆる異常な気象が繰り返され私たちの暮らしに少なからず様々な被害をもたらしています。7月の社会を明るくする運動は終わりましたが、犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域社会の理解と協力の輪が大きく広がることを願っています。